

インフォメーション・コーナー

平成 29 年（2017 年）九州北部豪雨災害に関する農業農村工学会の取組み

災害調査報告「農業農村工学会 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害による被災溜池等の第一次現地調査報告書（速報）」（平成 29 年 8 月 21 日版）を学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/>）に掲載しました。

農業農村工学会では、平成 29 年（2017 年）九州北部豪雨災害対策本部（本部長：災害対応特別委員会委員長 青山咸康京都大学名誉教授）を設置し、7 月 28～29 日に第一次調査団（団長：九州大学 平松和昭教授）を派遣しました。

会 告

○平成 30 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10 月 31 日	80
○平成 29 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 15 日	80
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願ひ	81
○学生会員入会時の特典について	81
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	81
○平成 30 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	82
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	83
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願ひと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	84
○土壌物理研究部会第 56 回研究集会の開催について（第 2 報） 参加申込締切 9 月 22 日	85
○農地保全研究部会第 38 回研究集会および現地研修会の開催について（第 3 報） 参加申込締切 10 月 31 日	85
○第 51 回畑地かんがい研究集会の開催について（第 1 報） 11 月 16, 17 日開催	86
○平成 29 年度 ADCA セミナーの開催について 10 月 28 日開催	87
○日本腐植物質学会第 33 回講演会および総会の開催について 11 月 16～17 日開催	88
農業農村工学会論文集内容紹介	89
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	91
受入れ図書	91
文献目録	92
学会記事	96

第 85 巻第 10 号予定

展望：地域の特徴を活かす畑地農業の展開に期待する：原口暢朗

小特集：進化する畑作（地）農業

- ▷報文：中山間地域における水田の畑地化整備の成立条件：芦田敏文ほか
- ▷報文：土の生物学的性質に基づいた土づくり—土壌肥沃度指標（SOFIX）—：甲斐貴光ほか
- ▷報文：畑地用地下灌漑システム OPSIS と ICT を活用した遠隔・自動制御による超節水技術の開発：
若杉晃介ほか
- ▷報文：水田地域における一大野菜産地への展開：栗田 徹
- ▷報文：中山間地域における畑作農業の可能性：衛藤彬史ほか
- ▷報文：基盤整備を契機とした高付加価値農業の展開は「稼げる農業」につながるか？：森澤健作ほか
- ▷報文：小型 UAV を用いた採草地の雑草群落範囲の推定：辻 修ほか

技術リポート

- 北海道支部：篠津地域における泥炭地開発と農地環境保全活動：坂本克史ほか
- 東北支部：柴野地区ほ場整備事業における環境配慮：茂内博哉ほか
- 関東支部：銅製開水路の塗装における経年劣化の検証：木下秋彦
- 京都支部：ダム貯水池内における軽量盛土工法の施工事例：畑下嘉和ほか
- 中国四国支部：農業用水を活用した小水力発電：松井繁幸
- 九州沖縄支部：畑地灌漑用水を活用した加工用ホウレンソウの収穫の平準化：水上貴博ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成29年9月19日	農村計画研究部会	第39回現地研修集会 Ⓟ	都市圏農業基盤の保全と活用	横浜市ほか	85巻7号
平成29年10月13日	土壌物理研究部会	第56回研究集会 Ⓟ	土壌化学を理解するための地球化学反応モデリングの基礎	札幌市	85巻8,9号
平成29年10月25, 26日	京都支部	第74回研究発表会 Ⓟ	—	金沢市	85巻4,6号
平成29年10月26, 27日	中国四国支部	第72回支部講演会・第41回地方講習会 Ⓟ	—	徳島市	85巻5,6,7号
平成29年11月1, 2日	九州沖縄支部	平成29年度支部大会 Ⓟ	—	福岡市	85巻4,7,8号
平成29年11月7日	関東支部	第68回支部大会 Ⓟ	—	千葉市	85巻7号
平成29年11月8~10日	東北支部	平成29年度総会・第59回支部研究発表会・第49回支部研修会・第39回地方講習会 Ⓟ	—	盛岡市	85巻7,8号
平成29年11月16, 17日	農地保全研究部会	第38回研究集会・現地研修会 Ⓟ	水田転作と農地保生	福山市ほか	85巻5,8,9巻
平成29年11月16, 17日	畑地整備研究部会	第51回畑地かんがい研究集会 Ⓟ	畑地農業をめぐる諸問題と将来の展開(仮)	佐賀市	85巻9号

平成30年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)

平成30年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、本誌第85巻第6号84~85ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、平成29年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

平成29年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について(再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成29年9月15日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。

3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役

立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成 29 年 9 月 15 日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：nakamura@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG 名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500 字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック 3 点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック 3 点セット（従来）

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000 円（15,750 円）

大学院生 19,500 円（16,750 円）

②必携 3 点セット（新設）

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000 円（5,750 円）

大学院生 10,000 円（7,250 円）

③ 2 点セット（新設）

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000 円（3,750 円）

大学院生 8,000 円（5,250 円）

（ ）内の金額は、10 月 1 日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂 5 版農業土木標準用語事典

問合せ先 （公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌9月号掲載の問題は10月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 30 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 30 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで。それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 86 巻（平成 30 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 夏季 平成 29 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りします。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 86 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 30 年度全国大会会場内でパネル展示します。

8. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意 点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿ください。

学会誌第 85，86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 85 巻第 10 号 進化する畑作（地）農業（仮）	公募終了
11 号 地域・事業コーディネート力を発揮した新たな農業農村の創生（仮）	公募終了
12 号 「農村協働力」を活かした防災・減災力の強化（仮）	公募終了
第 86 巻第 1 号 農業水利の本質と農業用水利用技術（仮）	平成 29 年 9 月 15 日
2 号 学生の学生による学生のための農業農村工学会誌（仮）	平成 29 年 10 月 16 日
3 号 農業農村工学における ICT 活用の取組み，課題と展望（仮）	平成 29 年 11 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は，刷上り 4 ページとなっておりますので，ご執筆の際には厳守いただきますよう，お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第 86 巻第 1 号テーマ「農業水利の本質と農業用水利用技術」（仮）

地球規模の気候変動が進む中で，降水現象の偏在化や激甚化による河川流況への影響が懸念されています。営農形態の変化や大規模化に伴い，農業用水利用の集中化や分散長期化も生じてきているため，従来の水利権上の取水パターンでは対応できなくなる灌漑地域も多くなっています。また，農地のスプロールの転用や減少に伴い，河川管理者からは用水量の再検討を求められるケースもありますが，面積減少に相当する水量を単純には削減できない特徴を農業水利は有しています。河川流況が変化し，新規水源の確保も難しい中で，水利権に係る河川管理者との技術的・行政的調整にもさまざまな工夫を必要としてい

ます。これらの課題に対し，農業農村工学の現場では，農業水利の実態や特徴を踏まえた河川管理者との協議調整や，農業水利施設の新設や改修，水管理改善などの農業水利技術を適用する事業により，課題の解決をはかってきました。

そこで学会誌「水土の知」では第 86 巻第 1 号で農業水利に関する小特集を組むこととしました。水利権調整や効率的な農業用水利用技術に関する取組み事例や課題，知見，調査や研究の成果について，学会誌掲載の報文として最新情報を提供していただきたく，会員の皆様から広く原稿を募集いたします。

第 86 巻第 2 号テーマ「学生の学生による学生のための農業農村工学会誌」（仮）

農業農村工学を学んでいる学生の皆さん，あなたが取り組んでいる博士論文，修士論文，卒業論文の成果などを学会誌に発表してみませんか？

農業農村工学会には研究の成果を発表するプラットフォームとして，①口頭発表・ポスター発表の場である大会講演会・支部学会研究発表会と，②報文・論文の発表の場である学会誌・論文集が用意されています。

①の大会講演会では平成 28 年度からスチューデントセッションが設けられました。スチューデントセッションの講演内容は，一般セッションの講演のようにまとまったものでなくとも，博士論文や修士論文，卒業論文として取り組んでいる研究の途中結果や展望であってもかまわないとされています。

今回の小特集は，このスチューデントセッションのような場を学会誌に設け，学生会員の皆さんに気軽に研究の成果などを紹介してもらおうというものです。大会講演会の前後には学生の自主企画であるサマーセミナーも開催されていますが，ここで議論された内容の投稿も大歓迎です。また，現在の研究環境や，この分野に対する展望など学生目線からの意見も歓迎します。

大会講演会（とくにスチューデントセッション）や支部研究発表会で発表した皆さん，学生自主企画サマーセミナーで議論した皆さん，そうでない皆さんも，研究の成果（途中結果も可）や展望などを報文にまとめませんか？

なお，応募多数の場合には，学生コーナーが学会誌の掲載区

分として常設されることも検討されています。学生会員の皆さんからの積極的なご応募をお待ちしています。

第86巻第3号テーマ「農業農村工学におけるICT活用の取組み、課題と展望」(仮)

近年のICT(情報通信技術)の発展に伴い、IoT(Internet of Things)、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)などに関する新たな科学技術の進展が社会の課題解決と経済成長に大きな役割を果たすことが期待されています。農業農村工学においてもこうしたICTを最大限に活用した技術開発の推進が求められています。

たとえば、「農業農村整備に関する技術開発計画」(平成29年4月策定)では、ICTの導入による、①作物の生育状況や農地の用排水状況等の常時モニタリング、②農地の用排水管理・施肥・防除等の遠隔操作・自動制御、③農地、農業用水に関する各種情報の効率的収集と提供の技術などが、「重点化する技

術開発」として挙げられています。今後、このような水利用・管理や営農の高度化・省力化に加え、施工の情報化、事業地区のデータベース化および農業農村工学技術の体系化・継承などに関する技術の開発と普及の推進により、農業農村整備事業を広く社会の理解を得て効果的・効率的に推進することが望まれます。

そこで、本小特集では、農業農村工学におけるICTの活用に関する取組み事例や課題、展望、調査や研究の成果、最新技術の開発について、大学、研究機関、開発事業者、メーカーおよびICTを活用する行政部署や事業主体などから広く報文を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO (Japan)

Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan

・Editors 14カ国から20名

・Advisory Editing Board 29名

・Chief Management Editor

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

・Managing Editors

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局(2016年7月から2018年6月まで):

・Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China
TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980
FAX : + 886-2-2368-6980
E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

ます。

発行スケジュール: 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先: 農業農村工学会事務局

土壌物理研究部会第 56 回研究集会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会土壌物理研究部会
共 催 土壌物理学会
2. テーマ 土壌化学を理解するための地球化学反応モデリングの基礎
3. 日 時 平成 29 年 10 月 13 日 (金) 13:00~17:00
* 情報交換会は翌日開催の土壌物理学会と共催
4. 場 所 北海道大学農学部 4 階大講堂
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/160812sapporao_can_map.pdf

5. 会場への交通手段

- ・新千歳空港から
JR「新千歳空港駅」より快速エアポートで「札幌駅」にて下車 (約 40 分)。
- ・JR 札幌駅から
西口改札口を通り、札幌駅北口方面へ出る。徒歩で農学部まで 1.0 km (約 15 分)。タクシーで農学部まで約 10 分。

6. 参加費 1,500 円 (要旨集代、ただし学生は無料)

7. 申込方法

9 月 22 日までに、E-mail または電話でお申し込みください。

8. プログラム

総司会: 徳本家康 (佐賀大学農学部)

13:00 受付

13:30 開会

13:40~14:30

「Overview of reaction and reactive transport modeling with The Geochemist's Workbench (GWB) (GWB による反応・輸送モデリングの概説)」(仮案)

Aqueous Solutions, LLC Craig Bethke

14:40~15:30

「GWB を利用した土壌化学の理解のための化学種」

北海道大学大学院工学研究院 佐藤 努

15:40~16:30

「Adsorption and transport of elements in GWB (GWB による元素の吸着・輸送モデリング)」(仮案)

Aqueous Solutions, LLC Craig Bethke

16:30~16:50 質疑応答

17:00 閉会

9. その他

- ・研究集会では、事前登録により、GWB のデモ版の利用が可能です。詳しくは土壌物理研究部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/dojou/>) をご覧ください。
- ・翌日の 10 月 14 日 (土)、同所にて「土壌物理学会シンポジウム」を開催予定です。詳しくは土壌物理学会ホームページ (<https://js-soilphysics.com/conf/>) をご覧ください。
- ・宿の予約は個別に手続きをしていただきますようお願いいたします。時節柄混み合うことが予想されています。できるかぎり早めの予約手続きをお願いいたします。

※都合により一部変更することがあります。

10. 申込み・問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1

佐賀大学農学部生物環境科学科

徳本 家康 (とくもと いえやす)

TEL : 0952-28-8755 E-mail : yasu@cc.saga-u.ac.jp

土壌物理研究部会ホームページ:

<http://www.jsidre.or.jp/dojou/>

農地保全研究部会第 38 回研究集会および現地研修会の開催について (第 3 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会農地保全研究部会
共 催 農研機構西日本農業研究センター
後 援 農林水産省中国四国農政局, 広島県

2. 開催日

(1) 研究集会 平成 29 年 11 月 16 日 (木)

10:00~17:00

(2) 現地研修会 平成29年11月17日(金)

9:00~15:00

3. 場所

(1) 研究集会 農研機構西日本農業研究センター 講堂
(広島県福山市)

(2) 現地研修会 現地農事組合法人・目谷ダム・農業法人ほか
(広島県世羅郡世羅町)

4. テーマ 水田転作と農地保全

5. 研究集会概要

農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。そこで、本年度は「水田転作と農地保全」をテーマとして、農地保全技術・研究、水田の排水対策、汎用化水田と土壌侵蝕、生産基盤の強靱化など、幅広いテーマについて、講演ならびに総合討論を行います。また、講演については、公募課題として2~3課題程度の講演を募集いたします。

<演題(予定)>

「世羅町における農業基盤整備と担い手育成の現状」

世羅町産業振興課 升行真路

「キャベツの大規模農業団地に向けた基盤整備の取組(仮)」

広島県西部農林水産事務所農村整備第二課 佐々木拓治

「農業農村整備事業推進における農地中間管理機構の役割(仮)」

農林水産省農村振興局

ほか

<公募課題の募集>

公募課題への応募については、農地保全研究部会のホームページに要領を提示しています。ご参照の上ご応募ください。(下記URL参照)

6. 現地研修会スケジュール

9:00 福山駅発

10:00~11:30 農事組合法人 聖の郷 かわしり

12:00~13:00 世羅ワイナリー (昼食)

13:20~13:50 目谷ダム (国営事業(農林水産省))

(車窓から、世羅菜園・日本農園)

14:30~15:00 寺岡有機農場

16:30 福山駅着(予定)

7. 参加申込みおよび参加費等

本年度の研究集会は、受付サイトでの申込み、参加費の振込み、事務局による振込み確認をもって、受付の完了といたします。なお、振込手数料等につきましては、参加者のご負担をお願いいたします。

(1) 申込み

以下の受付サイトよりお申し込みください。

https://pursue.dc.affrc.go.jp/form/fm/naro135/h29_sympo

(2) 申込締切 平成29年10月31日(火)

(3) 参加費

研究集会: 3,000円(大学生・大学院生は1,000円)

現地研修会: 3,000円(大学生・大学院生は1,000円)

参加費に昼食代は含みません。昼食については、別途ご案内します。

(4) 参加費の支払い

参加費は、事前にお振込みください。事務局で参加費の振り込みを確認した時点で、お申込みの完了とさせていただきます。

・ゆうちょ銀行から振込みされる場合

記号: 16400 番号: 13111531

口座名: 農業農村工学会農地保全研究部会

・他の銀行から振込みされる場合

店名: 六四八(ロクヨンハチ) 店番: 648

預金種目: 普通 口座番号: 1311153

口座名: 農業農村工学会農地保全研究部会

8. 問合せ先

農地保全研究部会研究集会事務局・庶務幹事 望月

E-mail: NN_Nouchihozen_Sympo_Office@ml.affrc.go.jp

※日程の詳細や講演者、参加申込方法などの実施要領については、農地保全研究部会ホームページも併せてご確認ください。

農地保全研究部会ホームページ:

<http://www.jsidre.or.jp/nouchihozen/>

第51回畑地かんがい研究集会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



畑地かんがい研究集会は、農業農村工学会畑地整備研究部会および(一社)畑地農業振興会が共催し2年に1回開催しているものです。本年の畑地かんがい研究集会は、「畑地農業をめぐる諸問題と将来の展開(仮)」をメインテーマとして、研究集会ならびに現地研修会を下記のように開催することになりました。

畑地農業の発展に向け、多様な農業水利施設の建設や農地の再編などさまざまな農業農村整備事業が実施されてきました。

これらの事業に伴ってさまざまな現場技術が開発されるとともに、畑地農業のさらなる発展を目指した研究が行われています。本研究集会ではわが国の畑地農業の現状、諸問題、最新の研究事例および現場技術について紹介し、畑地農業の将来の展開について議論します。国、地方公共団体、企業、土地改良区、大学および研究機関などの技術者、行政官、研究者等におかれましては、この研究集会に多数参加されますようご案内申し上げます。

1. 開催日

研究集会 平成 29 年 11 月 16 日 (木)

現地研修会 平成 29 年 11 月 17 日 (金)

2. 研究集会

(1) 会場：エスプラッツホール 3 階 交流センター

(佐賀市白山 2-7-1)

(2) 日時：平成 29 年 11 月 16 (木) 10:00~17:30 (予定)

(3) 課題：「畑地農業をめぐる諸問題と将来の展開 (仮)」

① 畑地農業に関する講演

(行政、民間および研究機関より 5~7 課題を予定)

② 総合討論

(注) 本研究集会は「技術者継続教育機構認定プログラム」に申請中です。

(4) 情報交換会 18:00~19:30 佐賀市内 (予定)

3. 現地研修会

平成 29 年 11 月 17 日 (金) 9:00~17:00 (予定)

・佐賀県の畑作地区および関連施設 (予定)

・佐賀駅集合・解散 (予定)

4. 参加申込み

後日、学会誌、学会ホームページ、畑地農業振興会ホームページに詳細を掲載いたします。

5. 宿 泊

各自でご対応をお願いいたします。

6. 各種問合せ先

畑地整備研究部会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町 1

佐賀大学農学部 弓削こずえ

TEL&FAX: 0952-28-8756

E-mail: hatachi.saga@gmail.com

畑地農業振興会

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-3-11

名和規夫

TEL: 03-3438-2581 FAX: 03-3438-2583

E-mail: hatasin@mu.j.biglobe.ne.jp

平成 29 年度 ADCA セミナーの開催について

(一社) 海外農業開発コンサルタンツ協会 (ADCA) では、毎年海外の農業農村開発の展開について国際協力の関係者 (JICA 等国際協力実施機関、大学等研究機関、コンサルタント、ゼネコン、NGO 等) と今後の可能性、方向性について、わが国の農業農村開発協力の実績を振り返りながら、共に考えることを目的にセミナーを開催してきました。

このセミナーでは、講演や協力事例報告、パネルディスカッション、業界説明会を通じて、世界における農業や食料事情を提供し、わが国の ODA における農業農村開発への理解を促進させることを目指しています。また、開発途上国において農業農村開発に従事する本邦コンサルタントの活動意義を正しく社会に発信し、次世代のグローバル人材となり得る若い皆さまに国際協力への第一歩を踏み出すきっかけ作りをすることを目的としています。

1. テーマ 国際協力と震災復興

2. 日 時 平成 29 年 10 月 28 日 (土) 13:00~17:00

3. 場 所 住友生命仙台中央ビル (SS30) 内
宮城大学サテライトオフィスおよび 8 階会議室
〒980-6090 宮城県仙台市青葉区中央 4-6-1

4. 対 象 宮城大学をはじめとする近隣大学の学生、および農業・農村開発の若手コンサルタント

5. 主 催 (一社) 海外農業開発コンサルタンツ協会

共 催 公立大学法人 宮城大学

後 援 農林水産省、(独) 国際協力機構、
(公社) 農業農村工学会

6. プログラム (予定)

13:00~13:05 開会挨拶

海外農業開発コンサルタンツ協会

13:05~13:10 共催者挨拶

宮城大学

13:10~13:15 来賓挨拶

<第 1 部講演>

13:15~13:45 基調講演

JICA 東北 三村 悟

<第 2 部現場からの報告>

13:45~14:10 報告

ADCA 会員コンサルタント等

14:10~14:30 報告

ADCA 会員コンサルタント等

— 休憩 (10 分) —

<第 3 部パネルディスカッション>

14:40~15:35

パネリスト：宮城大学、JICA 東北、会員コンサルタンツ
(調整中)

モデレーター：ADCA 大平企画部長

15:35~15:40 閉会挨拶

15:40~17:00 業界説明会案内ブースを設け、会社紹介・学生個別相談

17:30~19:00 懇親会

7. 申込み

FAX、E-mail から、氏名・職業および連絡先を明記の上、申し込んでください。

FAX: 03-3438-2584 E-mail: adca2@adca.or.jp

日本腐植物質学会第33回講演会および総会の開催について

1. 主 催 日本腐植物質学会
<http://www.research.kobe-u.ac.jp/ans-soil/jhss/>
- 共 催 農業農村工学会ほか
2. 日 時 平成29年11月16日(木)～17日(金)
3. 会 場 山口大学 吉田キャンパス (大学会館)
4. 内 容 一般講演(口頭およびポスター), テーマ講演(11月16日午後の予定), 総会, 懇親会(11月16日)
5. テーマ講演 「腐植物質研究における数理統計学的手法の活用」(以下仮題)
- (1) プロトンNMRによる大気・海水試料中HULISの特性解析: 因子解析の例も交えて 広島大学 岩本洋子
- (2) 三次元蛍光スペクトルのPARAFACモデルを用いた成分分離の基礎 北里大学 眞家永光
- (3) 蛍光分析におけるPARAFAC分析の応用例 名古屋大学 持田陸宏・陳 慶彩
- (4) PARAFAC分析のソフト開発
6. 参加費 会員2,500円, 非会員5,000円(要旨集代を含む)
7. 一般講演申込締切 10月1日(日)
8. 講演要旨提出締切 10月30日(月)
9. 参加事前登録締切 10月30日(月)
10. 講演・参加申込み方法
 講演題目, 発表者, 所属, 連絡先, 懇親会への参加の有無を明記の上, 下記へE-mail, ハガキ, FAXにてお申し込みください。発表は口頭発表かポスター発表か希望をお書きください。なお, 若手を対象にポスター賞を授与いたします。
11. 問合せ・申込先
 〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1 山口大学農学部内
 第33回日本腐植物質学会講演会実行委員会 柳 由貴子
 TEL&FAX: 083-933-5836
 E-mail: yyanagi@yamaguchi-u.ac.jp

資格試験のための 農業農村工学必携 第二版

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書の初版は「改訂七版 農業農村工学ハンドブック(平成22年発行)」をコンパクトに再編集し, 平成24年6月に発行いたしました。

資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして, また, 農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。

第二版は, 初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し, 「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。是非ともご購入の上, お役立て下さい。

主要目次

[テキスト]	第5部 事業の施行	第5部 農業・環境
本編	基礎編	第6部 社会
第1部 農業農村工学概説	第1部 数学・情報	索引
第2部 農業農村の整備計画	第2部 土	
第3部 設計・施工	第3部 水	[問題集]
第4部 管理	第4部 基盤	

体裁: B5判 約520ページ
 定価: 2,777円
 (税込・送料学会負担)

発行: 公益社団法人 農業農村工学会
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494 E-mail: suido@jsidre.or.jp
 学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>

